

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年2月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4677300065
法人名	社会福祉法人 内之浦会
事業所名	グループホーム 銀河の里
所在地	鹿児島県肝属郡肝付町北方576番地 (電話) 0994-31-6623
自己評価作成日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設は海や山、田畑など自然に囲まれた長閑な場所にあり、施設から見える景色から、季節の移り変わりを感じることが出来ます。木材や畳を使用した温かみのある建物で、ホールは天井が高く大きな窓から光が差し込むため明るく開放的な空間となっています。

・年に数回外食や地域の催し物へ参加したり、食材の買い出しに同行するなど、随時外出支援も行っています。

・排泄の支援には力を入れており、入居後は必ず排泄方法の見直しを行い、排泄状況の改善が見られることが多く、現在も日中は殆どの利用者様が普通の下着で生活されています。

・同敷地内には同一法人の特別養護老人ホームやクリニックが隣接しており、敬老会やクリスマス会等は合同で行うなど、日頃から交流・情報交換を行いながら、利用者様の状況に応じたケアに努めています。

・当事業所は、敷地内に母体法人の特別養護老人ホームや医療施設・通所介護事業所・ふれあい館・保育所が併設され、法人全体で地域に根差した取り組みが行われている。

・銀河マラソンやロケット祭り・集落の運動会などの地域行事への参加や法人行事への地域住民の参加、年2回、地域の温泉利用や利用者と近くの店への買い物・外食など、地域との交流が盛んである。

・排泄の自立に向けた取り組みを行い、利用者は日中、普通の下着で過ごしており、生活レベルの向上につながっている。

・医療機関や訪問看護との連携を図り、24時間医療連携体制が整っている。

・職員体制の整備や移動手段の工夫などを行い、日常的に外出支援に力を入れている。

・職員は明るく、家庭的な雰囲気の中で自立支援・機能低下防止に向けたケアに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はフロア入口に掲示。家庭的な雰囲気の中で、少人数だからこそ出来る細やかで1人1人の状態に合わせたケアを心掛けている。	法人理念と共にグループホーム独自の地域密着型サービスを踏まえた理念があり、玄関とホールに掲示、広報誌にも掲載している。ミーティングで確認と振り返りを行い、日頃から理念に沿ったケアを心がけ、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、地域の婦人部が慰問に来られたりと、施設に入所しながらも地域住民と交流する機会がある。又、食材の買い物と一緒にいき、地域に出向く機会を作るようにしている。	法人として銀河マラソンやロケット祭り・集落の運動会などの地域行事へ参加したり、法人行事への地域住民の参加、年2回、地域の温泉利用や利用者と近くの店へ買い物に出かけ挨拶や会話を交わしたり、運営推進会議での情報交換や婦人部の訪問、ボランティアや中学生の体験学習等の受け入れ等、日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	入所者家族であっても、認知症や認知症の方への対応を理解出来ない事も多いため、随時その時々によどのような対応をしているのかや今後どのような変化が見られる可能性があるのかを伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2か月に1回実施。入所者の近況や行事、事故、ヒヤリハット報告を行っている。他施設での取り組みや入所者家族の意見を聞き今後の参考にする事もある。</p>	<p>会議は入居者の状況や活動報告、行事や事業計画、事故・ヒヤリハット等の報告を行い、参加者から災害対策や入居の相談・待機者情報・地域状況等、活発な意見交換が行われている。出された意見や提案・情報はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営会議にてGHの近況報告や他施設での取り組みを聞いたり、分からない事はその都度、聞き助言を頂いている。生保受給者も入所している為、担当者と情報を共有している。</p>	<p>市担当者とは相談や書類関係で支所へ出向いたり、法人広報誌を届けたり、電話でも連携を図って相談やアドバイスももらっている。運営推進会議で事業所の取り組みを伝え、市主催の研修会へ参加する等、担当者と連携をとっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束については、定期的に勉強会を行い、理解を深めている。夜間は不審者対策の為、施錠を行っているが、日中は施錠せず対応。単独行動による転倒等のリスクがある方でも、見守りをしながら、出来る限り動きに制限の無い様な対応を心掛けている。</p>	<p>指針・マニュアルを基に身体拘束廃止委員会が中心となり年2回、身体拘束の具体的な行為や言葉の拘束の勉強会を実施し理解と意識の統一を図っている。日中は玄関は施錠していない。外出傾向がある時は、後からついて行ったり一緒に散歩して危険がないよう気配りし、身体拘束ゼロを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても定期的に勉強会を行っている。日頃から声掛け・対応には配慮し、職員の気になる言動がある場合は、その都度声掛け・注意をするようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内勉強会や介護支援専門員研修で学ぶ機会がある。現在は日常生活自立支援事業の利用者が1名おり、担当者による面談が定期的であり、情報共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	新規入所時は時間を掛け契約に関する説明や今後の対応、家族の要望等を聞くようにしている。遠方の家族へは、事前に必要書類を送り、目を通して貰うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族参加の行事や面会の際に、入所者の近況報告を行い、家族の要望等の聞き取りも行っている。利用者へも日頃の会話の中から聞こえてくる小さな要望を汲み取るように心掛けている。	利用者からは日常生活での会話や表情などから思いを汲み取るようにしている。家族には面会時や家族交流会・行事参加時、毎月の手紙での状況報告時に意見や要望を聞き、保湿の事や食事・カラオケがしたい等の要望があり、運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月必ず各棟・合同ミーティングを開催、利用者への対応に関してだけでなく、業務内容の検討も行い、随時業務の見直しを行っている。	毎朝のミーティング時や申し送りノート・毎月のユニット会議・合同ユニット会議において職員からの気づきや意見要望を聞く機会を設け、ケアに反映させている。管理者は必要に応じて随時、個人面談を行い、何でも言いやすい環境づくりを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得時の支援や研修への参加、資格取得に伴う昇給があり、意欲的に取り組める環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月特養との合同での勉強会に参加しているほか、ミーティング等で挙げた入所者の対応に対して、口頭だけではなく、実技での指導を行い、ケアへの理解を深めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の際に他施設職員の方々と交流をする機会があり、各施設での活動情報や支援方法を聞き自施設での活動の参考にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族、事業者と連絡を取り、現状や本人の要望・不安の把握に努め、ケアの方法の検討や環境整備等行い、安心して施設生活が送れるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始時には必ずご家族の要望や困っている事がないか確認している。ご家族が言葉として出されなくても不安に思っていると思われる件に関しては働きかけをする様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は本人・家族の要望を聞き、出来る限り要望に応えられる様にしている。また施設入所までのケアの方法を継続してだけでなく、少しでも改善できる所があれば、改善を目指していくことを入所時に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と関わる際はコミュニケーション大切にし、出来ることは出来る限りご本人に実施してもらい、機能低下予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所し認知症が進むにつれて、家族の関わりが減少してきているのが現状。認知症であっても、家族を気にする言動が見られたり、面会時の表情の違いをお伝えし、家族と利用者が今まで通りの関係を継続していけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へは毎月の便りにて面会や外出のお願いをしているが、認知症の進行や身体的な機能低下が進むにつれて、家族との関わりも減少している状態にあるが、地域の行事への参加や家族交流会等を開催し、知人や家族との交流を続けられるよう努めている。	利用者は地元の方が多く、行き付けの美容室や馴染みの店へ買い物・自宅訪問・納骨堂等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。毎月発行の便りにそれぞれの状況報告と合わせて面会や外出の依頼も行っている。手紙や電話・携帯電話の使用を支援している。家族の協力を得て外食や散歩等、出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士よく話をされたり、手助けする姿が見られりと、とても良好な関係が築けている。自ら積極的に話をされない利用者へは、職員が間に入り、他者との交流が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから退所となった場合でも、退所先と随時情報交換を行う様にしている。 また、同法人の特養へ入所した際は、GH入所者も一緒に面会に行くなど、退所後も関係の継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人への聞き取りに加え、入浴中や日常の何気ない会話や表情、活動状況の中から本人の希望や意向の把握に努めている。	入居時のアセスメント情報や日常の会話・表情から、思いや意向を把握している。家族からの聞き取り等で、情報を共有している。意思疎通が困難な時は、家族や職員の日頃の情報から把握し本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には、本人・家族・今まで利用していた事業所スタッフから情報収集を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月実施しているミーティングの中で、1人1人の現状や今後の対応について話し合う機会を設け、情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは関わる全職員で実施。介護計画は本人、家族の要望に合わせ、且つ残存機能を活用し機能低下予防に向けた内容になるよう心掛けている。	本人や家族の意向を事前に把握し主治医・関係職員の意見等を踏まえ担当者会議を開き介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、6ヶ月毎に見直しを行っている。状態変化時は随時、見直しを行い現状に即した介護計画となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の記録は個別に毎日実施。特記事項があった場合には、職員間で活用している申し送りノートにも記載し、情報の把握・共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>体調不良等で日頃と状態が変わった時は、その時の状態に合わせたケアの提供を行っている。状態改善時も話し合いの上、ケア内容の見直しをすることもある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加したり町内の施設を利用しながら楽しい施設生活を送れる様支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所と同時に隣接している吉重クリニックがかかりつけ医となっているが、眼科や歯科、ペースメーカー検査等に関しては、入所前からのかかりつけ医への受診を行っている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医が主治医となっている。2週間毎の往診と週1回の訪問看護利用で24時間対応が可能、歯科は往診、他科受診は家族の協力を得ながら必要時には職員が対応し適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回は必ずクリニックNSにより健康チェックが行われるほか、体調不良時には申し送りノートにて状態報告を行い、指示を仰いでいる。緊急時はピッチを利用し、速やかな対応を心掛けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>急な入院等に備え持ち出し用のサマリーを準備している。ADLや日頃の過ごし方、注意点などを記載している。入院中も定期的に様子伺いに行き、状態確認や情報提供を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>同敷地内に同法人の特養があることから、GHでの看取りは行っていない。入所時に看取りに対する指針を説明、同意を得ている。身体状況の悪化に伴い、GHでの対応が難しくなってきた時は、主治医・家族と相談の上、特養入所へと進めている。その為、特養の相談員へも入所者の近況報告を定期的に行っている。</p>	<p>入居時に重度化や終末期に向けた指針を本人家族に説明して同意を得ている。身体の重度化に伴い対応が困難になった時は主治医は家族と話し合い、特別養護老人ホームへの入所を勧めている。特別養護老人ホームへ利用者の状況を報告し連携をとっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の連絡網は作成しているが、訓練は行っていない。事故発生時はミーティングを行い、事故時の対応を再現・発生原因の究明、今後の対策を検討し、再発予防に努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署立ち合いの下、火災避難訓練・消火訓練、通報訓練を行っている。</p>	<p>年2回、消防署の指導で昼夜想定 の防災・避難訓練を行っている。 通報装置や連絡網が完備している。 法人全体で夜勤者や宿直者との協力体制が整っている。 災害時の水やカンパン・缶詰・即席カレー等、備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の状況やその時の状況に合わせた声掛けを行う様、日頃から職員同士声掛けを行っている。 ホールから近いトイレにはカーテン掛け、人目を気にせず用を足せるよう配慮している。	マニュアルをもとに法人全体での研修や事業所内勉強会において、人格の尊重とプライバシー保護に向けたケアに取り組んでいる。トイレ誘導や入浴介助の際の支援や声かけ等に配慮したケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶や食事、入浴時など、ゆっくりと過ごす中で、コミュニケーション・ステップを図りながら、本人の希望や思いを聞くように心掛けている。 また、晩酌をしないと眠れないと訴えのある利用者様もおり、本人訴え時は危険のない程度で晩酌をされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課に合わせて活動されている。基本的に日中は皆さんホールにて過ごされているが、夜間の睡眠に問題のない方は日中でもよく休まれていたり、テレビ鑑賞や読書、談話される方も居る等、各々好きなように過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類は基本的には本人着たいものを着ているが、季節や外出に見合った衣類を選べない方も多いため、援助を行っている。衣類の汚染があった時にはその都度更衣し整容に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせたメニューや誕生日には本人の食べたい物を聞き取り、メニューに取り入れるようにしている。 出来る限り自力摂取を続けられよう、食器や箸も利用者にあったものの活用している。	半年毎に嗜好調査を実施し、きざみ食やおかゆ等、食事形態や代替え食など工夫している。皮むきなどの下ごしらえや台拭き・下膳など、職員と一緒にやっている。行事食や花見弁当・外食・誕生日には好みの献立にする等、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かいカロリー計算はしていないが、1人1人の状態に合わせた量・形態での食事を提供している。中々水分を摂取しない方にはジュースやゼリー等での水分補給を勧めている。 医療面で指示がある場合は、主治医の指示のもと食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前やおやつ前の嗽や毎食後の義歯洗浄に加え、義歯洗浄剤を用いての義歯消毒を毎日実施している。拒否がある方はいつでも気が向いた時に口腔ケアが出来るようセッティングしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	新規で入所された際は、必ず排泄方法の見直しを行い、1人1人の排泄量や排泄回数に合わせてのトイレ誘導や尿パット使用を心掛けている。排泄感覚がない方でも基本的に日中は布パンツに尿パットにて過ごされ、排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行うことで失禁予防に繋がっている。	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握を行い、日中は全員パンツを着用しトイレ誘導を基本に支援している。リハビリパンツから布パンツへ移行した事例がある。夜間帯はポータブルトイレやパットを使い分ける等、個々に合わせた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認を行い、排便状態に応じて、下剤が必要な方は下剤調整を行っている。 又、水分補給を勧めたり、ヨーグルトやヤクルト、牛乳等の乳製品をほぼ毎日交代で摂取している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時間や曜日は決まっているが、入浴拒否がある場合は、時間をずらしたり翌日入浴や更衣のみ実施する等して対応している。身体機能の低下により、一般浴での入浴が困難になった時には、特養機械浴での入浴を行うこともある。	基本的には入浴は週3回、午前中実施。必要に応じて随時対応している。浴室床は滑り止めに防水の畳を敷き、入浴剤の使用、更衣室の温度調整にも気を配っている。入浴をいやがる場合は声かけや時間差で対応、必要に応じて清拭や足浴を行っている。年2回、地域の温泉を貸し切って温泉気分を味わっている。特別養護老人ホームで機械浴も利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休めるよう、日中は出来る限り離床して過ごして頂き、昼食後30分の昼寝の時間を設けている。個々の状態に合わせた寝具の利用や湯たんぽ・加湿器の使用にて快適な睡眠が取れるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護計画作成時に服薬している薬の名前、効能を書き出し、各職員確認をしている。個々の状態に応じて、粉薬は水に溶かす等、安全に服薬出来るよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日付確認や、花見やばた餅（餅つき）作り等、季節ごとの行事を行い、季節を感じたり昔を思い出しながら楽しく過ごせるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は庭でお茶を飲んだり職員と一緒に町内外へ買い物へ出かけたりしている。定期的に外食も行っている。お盆・正月は家族へ帰省を呼び掛けているが、利用者の機能低下もあり、帰省時の家族だけの対応が厳しくなりつつある。	日常的には散歩や鳥のエサやり・外気浴・職員と一緒にゴミ出し・買い物などに出かけている。年間計画での園外活動や地域の運動会やマラソン見物・温泉等、家族の協力を得ながら外出や外食など、日常的に外出への支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の事を気にされる方は家族と相談の上、数千円のみを渡しているが、どこに直したか分からなくなり探しが頻繁になったり、盗られたと聞かれるようになった時には、本人の理解を得た上で事務所や家族で管理するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はいつでも出来る状態にある。また職員の用事で家族へ電話連絡した際には利用者にも電話を替わり話ができるように心掛けている。遠方の家族へは随時写真も送るなどして、利用者の現在の状態確認が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やホールは畳が敷いてあり、暖かい家庭的な雰囲気がある。又大きな窓から見える山を見て季節の移り変わりを感じる事が出来る。10月以降はホール・各居室に加湿器を設置し、乾燥・感染症予防に努めている。	共用空間は広くて明るく、中央に畳のスペースやソファが置かれている。ホールから自由に出入りできるウッドデッキがあり開放的な雰囲気である。加湿器や空気清浄機を設置して感染予防に気配りしている。台所はオープンで食事の支度が見えて生活感がある。壁には季節の手芸作品や写真などが飾られ、居心地よく暮らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールにはソファがあり、日中は殆どの方が居室に行かれる事はなく、皆さんと談話されたりテレビ鑑賞等して過ごされている。職員が入らなくても、利用者同士コミュニケーションが図れており、笑顔も多くみられている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個々の状態に合わせた配置となっており、室内には家族の写真や位牌なども置き、家族が遠方においても身近に感じられるようにしている。	居室にはエアコンやベット・タンスが備え付けられ、和室の落ち着いた造りで出窓や障子があり明るい。テレビや家族写真・手芸品・人形・位牌・好みの小物等が置かれ、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合ったベッドの使用や、手すりや立位バー、トイレを設置し、無理なく安全に過ごせるよう配慮している。床材にはコルク・居室は畳が敷いてある等、安全を考慮した作りになっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない